

## (1)マウスにおける [ アムリット 4 およびアムリット 5 ] の免疫調節効果

### 文献名

Japan Journal of Hygiene, Vol.50, No.4, pp.901-905, 1995.

### 著者

井奈波良一、杉浦春雄、岩田弘敏

### 実施場所

Gifu University School of Medicine, Department of Hygiene, Gifu 500, Japan ( 岐阜大学医学部衛生学教室、日本、岐阜 )

### 要約

2種のアーユルヴェーダ補助食品 ( アムリット 4 およびアムリット 5 ) の免疫調節効果を評価するために、アムリット 4 およびアムリット 5 の水性乳濁液を 50 および 100 mg / kg の分量で 10 日間経口投与されたマウスにおける腹腔マクロファージ内のスーパーオキシド陰イオンの産生およびコンカナバリン A ( Con A ) に対する脾臓細胞の反応を調査した。アムリット 5 ( 50 mg / kg ) 処置群の腹腔マクロファージ内のスーパーオキシド陰イオンの産生は、対照群のそれよりも有意に高かった。Con A による脾臓細胞の刺激指数は、すべての投与量でアムリット 4 およびアムリット 5 処置群のほうが対照群よりも有意に高かった ( 3 ~ 4 倍 ) 。以上の結果は、アムリット 4 はリンパ球の反応性を高め、アムリット 5 はリンパ球の反応性を高めるとともにマクロファージ機能を向上させることを示している。また本研究は、アムリット 4 およびアムリット 5 にはリンパ球に対して有糸分裂誘発効果があることを示唆している。